



文部科学省「産業界のニーズに対応した
教育改善・充実体制整備事業」採択

地域力を生む 自律的職業人

育成プロジェクト

2015年 3月号



公立大学法人
下関市立大学
Shimonoseki City University

産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業 地域力を生む自律的職業人育成プロジェクトについて

下関市立大学長 吉津 直樹

本学は早くからキャリア開発やキャリア形成支援に力を注いできた結果、次第に満足度の高い就職活動の展開が可能となりました。とくに文部科学省の支援事業をいただき、盛り沢山の事業を組み込むことによってその内容は格段に高まつたと思います。

平成 22 年度～ 23 年度には「マイスター制と共創力教育による就業力育成」事業が文部科学省が募集した「大学生の就業力育成支援事業」に採択されました。この事業によって「マイスター制」が導入され、これまでの基礎・教養・専門の 3 本立ての教育にキャリア教育が有機的に結び付けられ、早くから就職を意識して学ぶ姿勢を高めることができました。

さらに平成 24 年度～ 26 年度には九州・沖縄・山口地域の国公私立 23 大学・短期大学が連携した「地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト」が、文部科学省の「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に採択されました。この事業によって国内外のインターンシップ事業を充実させることができました。とくにシンガポールでの国際インターンシップが行われるようになったことは大きな成果です。

平成 26 年度をもって文部科学省の支援事業は終了しますが、この事業によってまかれた種を今後着実に育てていきたいと考えています。



キャリア形成シンポジウム 『キャリア教育のウソ』から考える、地方大学での課題と実践

経済学部 特任教員（キャリア教育担当）森山 智彦

平成26年11月29日、本学において「キャリア形成シンポジウム」が開催されました。本シンポジウムでは、まずキャリア教育論の第一人者の児美川孝一郎先生（法政大学）から、キャリア教育が本来目指すべき方向性と現状との乖離についてお話し頂きました。続いて、地方大学のキャリア教育に精通されている平尾元彦先生（山口大学）から、地方大学の現状や抱えている課題、及び山口大学で取り組まれている実践例をご紹介頂きました。最後に企業の方を交えて、地方大学だからこそ可能なキャリア教育とは何かといった論点を中心に、パネル・ディスカッションが行われました。

それらの中で、この10年間のキャリア教育は就職活動対策に比重を置き過ぎたため、なぜキャリア教育や支援が必要なのかを再度原点に立ち戻って考えなければならないという課題が提示されました。そして、学生を自立性と社会性を兼ね備えた「大人」にするためには、就活対策に終始するのではなく、生きる力を総合的に育む教育を教職員が一枚岩となって全学的に実施することや、授業における細かな指摘、職員の窓口対応といった小さな積み重ねの重要性を全員が意識する必要があるといった言及がなされました。さらに、地方の大学だからこそ可能な地域活動とキャリア形成との関連について、活動を通じて育まれた「地域貢献」に対する皮膚的な感覚が、後々地方でキャリアを歩む上で大いに役立つという指摘がなされました。



インターンシップ実務担当者意見交換会

学務グループ長 上本 孝司

平成27年1月13日、本学において「インターンシップ実務担当者意見交換会」が開催されました。これは、大学及び企業の事例報告の後、本学を含む近隣の大学担当教職員と、本学がインターンシップ受入れをお願いしている企業等の担当者による意見交換を通して、大学と企業双方にとってメリットのある、インターンシップ・プログラムを構築することを目的としています。

高知大学教育研究部総合科学系地域協働教育学部門の池田哲実教授による事例報告では、就業力育成を目指し、協働型インターンシップとしての、長期社会協働インターンシップ(CBI)と人間関係形成インターンシップ(SBI)が紹介されました。何れも実習期間の長短に関係なく、学生と企業双方の本気度が高ければ学生は成長できるし、企業も社会貢献だけではない付加価値も生まれるのではないかと思われました。

次に、三菱化学物流株式会社のインターンシップ取組事例では、参加学生の意識が高まり、社会貢献としての意義が薄れ人材確保のためのインターンシップになりつつある現状に、今後の課題が見受けられました。今年度からの就職活動時期の変更に伴い、インターンシップ実習と選考時期の重複による影響や、3月の広報活動前や選考後のインターンシップ導入の動きにも注目していきたいところです。

企業と大学のインターンシップ担当者による意見交換会は、ワールドカフェ方式により行われました。「実りあるインターンシップにするために」のテーマに沿って、双方の立場で意見を出し合うなかで、企業がインターンシップを受け入れる本音、大学がインターンシップに参加させる理由など、様々な意見を共有できたことは非常に有意義でした。本学においても、今後インターンシップ・プログラムの再構築に大いに役立つ意見交換会だったと思います。



キャリア合宿・第2回市大キャリアスタディ 経済学部公共マネジメント学科 3年 杉原 由希

就職活動が始まる前に自分の今の社会人としての実力を確認したいと思い、山口県セミナーパークにて開催された、キャリア合宿に参加しました。合宿中は下関市立大学を卒業された社会の方や、就職活動を終えられた4年生の先輩方とグループワークに取り組みました。その中で、社会人として活躍するためにはどのような力が必要なのか、また社会人としてのマナーを細かく指導していただいたことで、自分の実力を知り、今後の課題を見つけることができました。

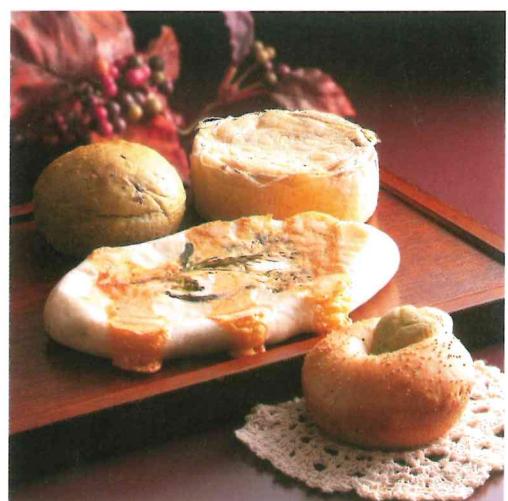
夕方から始まった第2回市大キャリアスタディでは、OB・OGの方から仕事をすることの楽しさや厳しさをはじめ、食事の場でのマナーや人との付き合い方などを教えていただきました。今回この合宿に参加し、様々な年齢の方とお話をすることで、社会人として働くイメージをより明確にすることができました。(2月7日～8日実施)



共同自主研究（PBL）

経済学部国際商学科 3年 榎山 みなみ

私たちは、「朝食需要の獲得」をテーマに、下関地域の百貨店である株式会社下関大丸とパンの共同開発を行いました。学生メンバー4人で下関大丸の方のご協力を得ながら、十数回にわたる会議を重ね、パンの市場調査から顧客ターゲットの設定、テーマの設定、それに伴うアイデアの考案、試食を重ねた商品改良、価格設定、広報活動、販売にいたるまで、商品開発における一連の流れを経験することが出来ました。学生間、また学生と企業間の意見の衝突も多々あり、なかなかスムーズに事が進まない時もありましたが、広報活動や店頭販売を積極的に行った結果、目標金額の2.5倍の売上を実現することに成功しました。私は、今回の研究活動を通して、チームで1つのことに取り組むときに必要な協調性などのチームワークを学ぶことができました。最後ではありますが、株式会社下関大丸様、それから大学関係者の皆様のご支援、ご協力にこの場を借りて心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



第1回市大キャリアスタディ

経済学部国際商学科 3年 重松 志宙

私はキャリアスタディで、現在も多方面で活躍をされている本学のOB・OGの方々から貴重なお話を聞かせていただきました。この経験から学んだことは、主体的にキャリアデザインを行うことの重要性です。キャリアスタディに参加する以前の私は、「知らない」という理由だけで、特定の業界を自らの選択肢から除き、可能性を狭めていました。しかし今回、ITや金融、メーカーやマスコミといった様々な業界の第一線で活躍をされている先輩方のお話を聞かせていただく中で、それぞれの職業に特有の魅力ややりがいがあることに気付き、従来の自分の考え方いかにもったいなかったかを知りました。また、自らの学生時代や、仕事の魅力などのお話をされる先輩方の姿は自信に溢れており、非常に大きく感じました。このキャリアスタディに参加して、「働く」ということがより身近に考えられる貴重な経験になりました。(11月15日実施)



第2回業界研究バスツアー

経済学部国際商学科 3年 下田 修嗣



今回の業界研究バスツアーでは、高品位ホーローで知られる、タカラスタンダード(株)福岡工場へ見学に行きました。工場見学では、資材がホーロー加工され、製品になるまでの一連の流れを見学しました。工場内にはホーロー技術を最大限に利用して作られた、一種のアートのような作品が展示されていて、住宅設備以外でもホーロー技術の新しい可能性を感じました。今回の工場見学を通して強く印象に残ったことは、タカラスタンダードの工場は女性も年配の方も働ける環境であったことです。工場の作業員は男性というイメージが強かったのですが、女性の作業員の方も目立ちました。老若男女問わず雇用をしているという点で非常に社会に貢献している会社であるという印象を受けました。今回の工場見学では、普段の生活で直接見ることのできない企業的一面を知り、社会を学ぶ非常に良い経験をしました。(12月22日実施)

第3回業界研究バスツアー

経済学部公共マネジメント学科 3年 甲利 知絵

今回の業界研究バスツアーでは、「TOTOサニテクノ株式会社」と「シャボン玉石けん株式会社」の工場見学に行きました。TOTOといえば、みなさん一度は耳にしたことのあるトイレのメーカーです。ご存知のとおり、トイレの大半は陶器でできています。陶器は土と水を混ぜ合わせた粘土状のもので形を作り、乾燥させて、焼き上げることで陶器になります。工程が進むにつれて水分が抜けて縮むため、その縮み具合を計算に入れて設計をしなければなりません。そのため、徹底した温度管理・湿度管理を行い、製品すべてが同じ規格となるように高い技術力が要求されます。シャボン玉石けんでは無添加にこだわった製品づくりを行っていました。石油から作られた合成洗剤は人によっては肌が荒れたり、環境が破壊されたりします。そこで、シャボン玉石けんでは環境にいい物が作りたいという思いから、石けん成分以外に余計な添加物を加えない製品づくりが行われていました。このようなメーカーの高い技術力や想いが日本の物づくりを支えているということを感じました。(2月12日実施)



金融・為替市場の動向を学ぶ講座

経済学部国際商学科 3年 池田 有紀



この講座では、新聞を使って金融と為替の仕組みや、世の中の動向やビジネス視点について勉強しました。特に、豊富な知識を持つ講師の方が、県や企業の取り組みで成功した事例、またその成功の背景までも丁寧に解説してくださいました。知識をつけるだけでなく、グループワークを行い、新しいビジネスモデルや企画を考えることもしました。皆で意見を出し合い、議論が盛り上がり、より良い案を作りあげる楽しみを学びました。円安である今、山口県へ訪日観光客をどう呼び込むか、などをテーマに日々、変化する経済の流れをつかみ、その中で今後何が必要なのか、どんなサービスが望まれるのか、を考えて自分の意見を言えることが、今後社会に出てからは必要になってくると思います。講座を受けて新聞を読む習慣が身に付いたので、ただ読むだけではなく、「なぜ?」「今後の予測は?」など、自らしっかり考えることをこれからも続けていきます。(12月1日~1月19日実施)

キャリア概論を受講して

経済学部国際商学科 1年 屋形 洋子

15回の講義を通して企業等で働いている講師の方が共通して重要なとおっしゃっていたことで、私の心に残ったことは3つです。1つは、「コミュニケーション能力をつける」ということです。面接はもちろんですが、入社して仕事を始めてから、毎日仕事をしていくにあたって、人と接することが、基本になっていきます。自分の意見を相手に伝えたり、相手にわかりやすく伝えるために、今のうちからコミュニケーション能力を身につけるべきです。私は、人見知りで人と話すことが得意な方ではありません。そこで、今のうちから身近な人、例えば友達や家族などに、自分の気持ちや思ったことをわかりやすく伝える努力をしています。このことはこれからも続けていこうと思っていることです。2つ目は、「何にでも挑戦する」ということです。失敗を恐れず、新しいことに挑戦することで、新しい自分やおもしろいものを発見することができると思います。この挑戦するということを受けて、私は来年から1年間派遣留学に行きます。私のまわりも留学したという方が多く、日本以外の国に身を置いてみることでたくさんのこと学べると思ったからです。3つ目は、「苦手なことを小さなことでもいいから克服する」ということです。これは、社会に出て働くときに、はじめてのことや困難なことを克服する難しさから逃げるのではなく、挑戦する気持ちで臨んでいかなくてはならないのだと思うからです。このことについては、今後実践したいと思います。私は人と話すという苦手を、留学の間に克服したいと思っています。



ビジネスプロフェッショナルを受講して

経済学部国際商学科 4年 姜 福林



この講義を通して様々な業界や企業の人から、社会人として求められる人材について、詳しく学ぶことができ、社会人として働く自分の姿がイメージできました。会社から内定をもらい、入社までの時期は一番不安だとよく言われています。この会社は本当に自分が行きたい会社なのか、会社でうまくやれるのかなどのことを悩みます。しかし、どんな仕事もやればやるほど面白い反面入社後の4、5年は必ず苦労し、その苦しさを乗り越えることに意味があることがわかりました。だからこそ社会人になって、苦労を恐れず真面目に働くことによって、会社に認められることを学びました。

多くの社会人の方々は会社で仕事を分担し、組織で動くので、お互いに協力し合って仕事を進める事を重視しています。そのため、互いの価値観を尊重し、相手の意見にきちんと耳を傾け、積極的にコミュニケーションを取ることが大切です。また、「責任感に溢れ、目標を持って、最後までやり遂げる」ということは一番私の印象に残りました。最後に、企業の方々から直接話を伺うことによって、自分の不安が解消され、この講義を受けて本当に良かったと感じました。この講義で学んだことを活かし、社会人として新しいことに挑戦し、成長していきたいです。

下関市立大学キャリアセンター

〒751-8510 山口県下関市大学町二丁目1番1号
TEL.083-252-0313(直通) FAX.083-254-3653(直通)

URL <http://www.shimonoseki-cu.ac.jp>
E-MAIL shusyoku@shimonoseki-cu.ac.jp

JR下関駅から

サンデンバス 3番のりば
(約20~25分程度乗車)
「北浦(綾羅木・安岡)方面」に乗車、「山の田」バス停下車徒歩4分
「豊町線」山の田、石原車庫方面に乗車、「山の田」バス停下車徒歩4分
「豊町線」大学町、石原車庫方面に乗車、「大学町二丁目」バス停下車徒歩2分

JR幡生駅から

サンデンバス 5番のりば
(約20~25分程度乗車)
「丸山線」に乗車、「山の田」バス停下車徒歩4分

JR新幹線新下関駅から

サンデンバス 2番のりば
(約15分程度乗車)
「川中豊町線」に乗車、「大学町二丁目」バス停下車徒歩3分

タクシー利用約10分

